

## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道432号 竹原バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	広島県
起終点	自：広島県竹原市下野町 至：広島県竹原市新庄町				延長	4.3 km
事業概要	<p>一般国道432号は、広島県竹原市から島根県松江市に至る延長約21.4kmの幹線道路である。竹原バイパスは、交通混雑を解消することにより広島空港へのアクセス性の向上を図ることを目的とした、延長4.3kmの4車線（暫定2車線）道路である。</p>					
H6年度事業化	H7年度都市計画決定	H8年度用地着手	工事未着手			
全体事業費	約71億円	事業進捗率	64%	供用済延長	0 km	
計画交通量	18,600台/日					
費用便益分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	平成15年		
	2.9	33/62億円	181/181億円			
	(残事業)	事業費：30/59億円 維持管理費：3/3億円	走行時間短縮便益：126/126億円 走行費用減少便益：23/23億円 交通事故減少便益：32/32億円			
	5.5					
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施					
交通量変動	B/C=3.2 (交通量+10%)		B/C=2.6 (交通量-10%)			
事業費変動	B/C=3.0 (交通量+10%)		B/C=2.8 (交通量-10%)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保（第二種広島空港へのアクセス向上が見込まれる）</li> <li>個性ある地域の形成（2級河川賀茂川により一体的な発展が阻害されている下野地区から新庄地区を解消する）</li> </ul> <p style="text-align: right;">他8項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	竹原バイパスは、一般国道432号の交通混雑を解消し、広島空港へのアクセス性の向上に重要な役割を果たすことが期待されており、また起点側の土地区画整理事業との接続等の早期整備を求められている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成5年10月に開港した広島空港の利用から、H6の事業化以降は現道の利用者交通量が増加し、交通混雑の解消を要望されている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地補償が難航しているが、引き続き交渉し早期に供用できるよう事業展開を図る。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	一部用地交渉の難航により、取得用地が不連続であるため、現在工事着手していないが、引き続き用地買収を推進し早期供用に努めるものである。					
施設の構造や工法の変更等	盛土材料として、近郊で施工中の大仙バイパスの発生土を流用するなどコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。